

平成 29 年 3 月 7 日

文部科学大臣の答申にともなう

## 国宝の指定について

来る 3 月 10 日（金）に国の文化審議会が開催され、河内長野市内の美術工芸品では、国宝 1 件（詳細は別紙）が、文部科学大臣に答申される予定です。今回指定される予定の国宝は次のとおりで、この国宝指定により河内長野市における国宝指定は 64 年ぶり、7 件目となる見込みです。

### ○名 称

〈彫刻の部〉

（重要文化財 3 軀を統合して国宝 1 件に）

だいにちによらいざぞう

大日如来坐像（一軀）

もくぞうふどうごうざんぜみょうおうざぞう

木造不動降三世明王坐像（二軀）

### ○所有者

宗教法人天野山金剛寺

☆本資料の取扱については、文化庁の指示により下記のとおりお願いします。

ラジオ・テレビ・インターネット：

平成 29 年 3 月 10 日（金）文化審議会  
終了後（17 時メド）解禁

紙面：平成 29 年 3 月 11 日（土）朝刊  
から解禁



・写真データが必要な場合は、河内長野市の問い合わせ先までご連絡ください。

<問い合わせ先>

◎文化庁

文化庁文化財部美術学芸課 電話 03-6734-2887（直通）

◎河内長野市

河内長野市教育委員会 ふるさと文化財課 電話 0721-53-1111

## 国宝・重要文化財（美術工芸品）の詳細説明

### 木造大日如来坐像（一軀）・木造不動降三世明王坐像（二軀）について

#### ○名称

〈彫刻の部〉（重要文化財3軀を統合して国宝1件に）

木造大日如来坐像（一軀）・木造不動降三世明王坐像（二軀）

#### ○所有者

宗教学法人天野山金剛寺（大阪府河内長野市天野町 996）

#### ○時代

平安時代・鎌倉時代

#### ○大きさ

像高：大日如来坐像／313.5 cm、不動明王坐像／201.7 cm、降三世明王坐像／230.1 cm

#### ○説明

天野山金剛寺は河内長野市に所在する真言宗の寺院で、平安時代の末に、真言僧阿観（註1）が鳥羽天皇の皇女八条院（註2）の帰依を得て建立しました。

このたび、金剛寺の木造大日如来坐像一軀と木造不動明王坐像一軀、木造降三世明王坐像一軀のあわせて3軀を統合し、国宝1件として指定されます。本作品3軀はいずれも明治32年（1899）に重要文化財に指定されており、この国宝指定によって、河内長野市における国宝指定は64年ぶり、7件目となる見込みです。

本作品は金剛寺金堂の本尊像で、3メートルを越える巨大な大日如来坐像を中尊とする三尊像です。中尊は金剛寺の草創期である1180年前後の作で、大きさ、できばえともにこの時代の大日如来像を代表する作例と言えます、光背・台座に弘法大師空海に由来する図像的な特色を示す点でも注目されます。

不動明王坐像、降三世明王坐像は最近の保存修理で胎内から墨書が確認され、仏師快慶の弟子、行快が天福2年（1234）に造ったことが判明しました。三尊としての構成は智証大師円珍が中国よりもたらしたとされる尊勝曼荼羅（註3）に依拠しており、この図像になる唯一の遺品としても貴重です。

保存修理に伴い、この度、初めて本格的な調査が実施された結果、この三尊像がおおよそ半世紀をかけて造られ、以後おおむねその状態をとどめて今日まで伝えられてきたことが明らかになりました。

※註1 阿観：聖地房阿観。保延二年（1136）生、承元元年（1207）没。和泉国大鳥郡生まれ。高野山で真言密教を学び、永万元年（1165）に天野山にはいり、金剛寺を建立した。

※註2 八条院：保延三年（1137）生、建暦元年（1211）没。鳥羽天皇の第3皇女。母は美福門院。父母の寵愛と権勢を一身にうけ、200箇所以上ともされる大庄園群を八条院領として集積し、所有した。

※註3 尊勝曼荼羅：仏の頭頂にある隆起した肉髻の徳を人格化した仏頂のうち、最も勝れ、一切の煩惱や業障を除くとされるものが尊勝仏頂とよばれる尊格で、その尊勝仏頂の徳を顕すため、大日如来を中心として描かれたのが尊勝曼荼羅である。